

<金標準、短期2年債がFFレート誘導目標を上回る・・・>



(出所：オアシス)

ベッセント財務長官が「今後数日に、洋上にあるイラン産原油の制裁を解除する可能性がある」と発言、またイスラエルのネタニヤフ首相が「紛争は考えられているよりもはるかに早く終結する」と発言し、一時原油価格が92ドルまで下落している。しかしトランプ大統領はイランへの米軍地上部隊の派遣を否定しているも、米国が地上部隊派遣の可能性に向けた準備を進めているとCBSが報じるなど、長期化の様相を受け原油価格は再び98ドルを超えている。特にイラン戦争前は、年内2回の利下げを織り込み金価格は高値追いを続けていたが、湾岸諸国での原油や天然ガスの精製施設が攻撃を受け、急速なリスク織り込みを示し、政策金利に近い短期2年債の金利はFFレート誘導目標(政策金利)である3.75%を超えて3.907%と逆に利上げを織り込みだしている。そのため「金利を生まない金」として悪材料であり、金標準先物は23814円まで下値を試すなど、弱気に傾いた市場の心理の反映であり、今年の安値である22601円に向けた値動きに注意が必要と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが下げながら、シグナルも下げている。RCIは短期が下げながら、長期は下げている。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジを下回り、乖離が拡大した状態である事から目先は25000円に向けた自律反発に注意が必要に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 11,225,000 円(2026年3月23日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復 113,520 円(2026年3月23日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>